

頂上目指して足どり軽く



1,085mの焼峰山を登る秋の市民登山が、10月14日約50人の市民が参加して行われました。天気は今一つパッとしませんでしたが、初めて参加したある主婦は「自信ができました。来年も、是非参加したいですね」と語っていました。



### 小学生が一日消防署長

木崎小学校4年生の桑野雄一郎君が、1日消防署長をつとめ、市内の事業所や保育園で火災の予防を訴えました。これは消防の北出張所（高橋雅晴所長）の計画で実施されたもので、桑野君は「消防の仕事がこんなに大変だとは思いませんでした」と感想を述べていました。



### 何人で食べたかな

高森児童館の子供たちが、神社裏の砂地に植えたさつまいもからなんと重さ3,500gの大物がとれました。形はグロテスクですが、色白で中々の味だったとか。



### 豊栄太鼓の伝統を守る

消えかかっていた勇壮な豊栄太鼓が、地元有志の指導により豊栄高校の文化祭（にひばり祭）で復活披露されました。太鼓の響きが終わった途端、万場の拍手そして、アンコールの声、声。



(22)

### 岡方組大庄屋と女池新田

新潟市に女池という所がある。今は立派な市街地に変わっているが、元和九年（一六二三年）に開発されたと伝えられる新田であった。この村の名主は宝永五年（一七〇八年）以降吉井家であった（これ以前からと思われる）。この吉井家は寛延三年に名主役を罷免されるが、この後の同村の名主は、岡方組大庄屋と浅からぬ因縁を持つようになる。女池新田は蒲原横越組の中では、極めて特異な村であり、同村の名主は近隣五カ村を合わせ、自村共六カ村の名主を兼帯する。しかも、被支配村は女池村と何のつながりもない、いわば独立村であった。こうした例は蒲原

横越組ではない。

さて、吉井家の後女池村名主となったのは、寛延三年には駒林村の原市兵衛、次いで宝暦三年（一七五三年）には小泉徳十郎の名が出る。市兵衛から徳十郎への交代時期は不明である。宝暦二年ではないかと思われるが推測に過ぎない。明和二年（一七六五年）に徳十郎から新田見半蔵へと変わる。新田見半蔵の祖は仁多見八左衛門。五カ村組小河村に住み小頭であったが、元文二年（一七二七年）川北組のうち五ヶ村組、十四ヶ村組、分田組、駒林組の四カ組が統合されて岡方組ができた時、その初代大庄屋となった。宝暦年間、おそらく半蔵の父犀蔵の代に大庄屋を退役させられている。はつきりした事情や年代は不明であるが、宝暦五・六年ころのことらしい。小泉徳十郎の父は武兵衛。武兵衛は寛保二年（一七四二年）十二月、江端村名主から岡方組大庄屋に任命された。岡方組成立以前には分田組小頭である。宝暦三年には大庄屋武兵衛の名が見えるから親の武兵衛は岡方組大庄屋、子供

の徳十郎は女池村名主になっていたものと思われる。

原市兵衛は上駒林村に住み、駒林組小頭を勤めた原惣左衛門の子と考えられる。いつまで女池村の名主をしていたのか、史料を欠きはつきりしない。宝暦六年には岡方組庄屋市兵衛の名が見える。明和二年、岡方組大庄屋がいなくなった理由で、退役後隠居していた武兵衛は、ふたたび岡方組大庄屋に任命される。新多見家は女池新田名主として明治に至る。岡方組成立以前の小頭が女池新田名主に任命され、岡方組大庄屋となったり、岡方組大庄屋経験者が女池新田名主となっている。こうしたことは、女池新田の特異性うしたことは、女池新田の家格のとともに、女池新田名主の家格の高さを物語るものであろう。女池移住直後の半蔵が独礼名主の中に名を連ねていることも、この表れといえる。なお、小頭は小さな組（十カ村内外）の支配を行い、大庄屋に次ぐ地位であった。

市史編さん員 南 憲一

### 表紙のことば

市の文化祭が、十月二十九日から十一月四日まで中央公民館で開かれ、おおぜいの鑑賞者でにぎわいました。三日と四日には、館内に茶席も設けられ、文化祭を訪れた人たちは、しばし茶の湯の風情を楽しみました。

### 編集室

▽一枚の写真は、瞬間の記録であるとともに歴史を刻むコマです。平凡な写真が後の世に貴重な資料になることも少なくありません。▽進歩や変ぼうの著しい時代です。顧みるといつしか身辺から姿を消してしまっただけのもの、また形態の変化したものなどが沢山あります。▽市では、現在のありのままの様子を二十一世紀に残すため、写真集を作製することにしました。（詳しくは九頁に掲載）あなたのカメラの中に入っている、残りのフィルムを後世のために役立ててくれませんか。